



船橋市立医療センターNews No.20

●発行年月日/平成26年4月1日 ●編集/船橋市立医療センター広報委員会 ●発行責任者/院長 高原 善治
〒273-8588 船橋市金杉1-21-1 ☎047-438-3321(代) <http://www.mmc.funabashi.chiba.jp/>



「春のアンデルセン公園～4月20日まで花と緑のフェアを実施中～」公益財団法人 船橋市公園協会 提供



高度な急性期医療を担う病院へ

船橋市立医療センター院長 高原 善治

平成26年度がスタートしました。今年度は2年ごとに行われる診療報酬改定の年にあたります。今後10年間に進む高齢化社会に向かって、いかに診療体制を変革していくかを示した改正になっていると思われます。すなわち、増加する医療需要に対して限られた医療資源の中で効率化を図るため、医療機関の機能分化と在宅医療の促進、これらを結び付ける医療・介護施設の連携が中心となっています。以前から当院は高度な急性期医療を担う病院として、船橋市民の希望に沿った医療を実現するために努力しているところですが、今後も医療の効率をも考慮し、さらに他の医療機関との連携を密にして、急性期医療に特化した地域医療支援病院として充実を図っていきます。急性期を乗り切った患者さんに対しては、地域の医療機関と連携して診療を行っていきたいと思っています。

当院は救急医療とがん診療を中心とした急性期医療を目指しています。がん治療の中で放射線治療は一つの重要な治療法です。医療における放射線の利用は、最初にレントゲンにより診断に有効であることが発見され、今日の発展となっています。一方、治療にも有効であることから、悪性腫瘍の治療にも広く用いられるようになりました。この放射線を扱う放射線科も二つに機能分化ってきており、当院においても4月より従来の放射線科を放射線診断科と放射線治療科に分け、診療の効率化を図っています。

目次

院長あいさつ	1	三村診療局技監が表彰されました／ロゴマークが完成／
病院事業管理者あいさつ／人事異動紹介	2	研修医のつぶやき 7
退任者挨拶／新任者挨拶	3	第17回 公開医療講座／第7回 がん市民公開講座 8
特集 放射線診断科・放射線治療科を紹介します	4～5	剖検慰靈祭を行いました／看護師（常勤・パート）募集 9
当院における地域医療連携／災害に備えて水を確保	6	外来担当医師一覧表 10

病院事業管理者あいさつ

～26年度を迎えて～

船橋市病院事業管理者 鈴木 一郎

昨年、当院は創立30周年を迎えました。10月6日には松戸徹船橋市長や、斎藤康千葉大学学長（当時）はじめ多くの方々にご参加いただき、30周年記念講演をはじめとした記念事業を行うことが出来ました。昭和58年に9診療科、152床で開院した当院が、26診療科、449床、救命救急センターを有する地域の中核病院にまで発展した30年の歴史を振り返り、更なる発展を改めて誓いました。

こうして迎えた26年度は、当院を象徴するロゴマークも完成し、放射線科を放射線診断科と放射線治療科とに分け、あわせて27診療科での新たなスタートを切ることが出来ました。また、各病棟に薬剤師を配置し、薬剤師が病棟での薬剤管理を行うことで、医療安全はもとより、患者サービスの向上などが期待されます。

また今年度は診療報酬改定の年でもあります。今回の改定は、高齢者の在宅復帰をより鮮明に意識した改定となっています。それぞれの診療機関の機能の明確化や役割分担が求められるとともに、医療と介護の連

携強化が求められています。そのような中、当院は引き続きDPC病院Ⅱ群に選ばれました。今後も高度急性期病院としての役割を担っていくために診療体制の充実を図るとともに、国が定める方向性に柔軟に対応して地域医療体制の中核病院としての役割をしっかりと果たして行きたいと思います。



今年度の船橋市の一般会計予算には、病院の建替えに関する調査費が計上されました。また、新しい地方公営企業会計基準に基づいて作られた病院事業会計予算は、病院の建替えに向けた準備をはじめとする意図が盛り込まれたものになっています。いずれの予算も建替えに向けての一歩を踏み出すものになります。

平成26年度は、船橋市立医療センターの歴史に新たな1ページを刻む大切な年になります。

人事異動紹介（4月1日）

医局	新任者	退任者
診療局技監		鈴木 康伸
産婦人科部長	齊藤 俊雄	鈴木 康伸
眼科部長	上原 七生	
放射線診断科部長	七條 祐治	
放射線治療科部長	有賀 隆	

看護局	新任者
副看護局長	和田 弘子
感染制御室看護師長	池崎 陽子

薬剤局	新任者	退任者
薬剤局長	小安 勝	古庄 賢巳

診療科名	採用者			退職者		
呼吸器内科	天野 寛之	巴山 紀子	柳澤 麻子	山岸 一貴		
消化器内科	神崎 洋彰	興梠 慧輔		高城いぶき	明杖 直樹	
循環器内科	五十嵐 昂	山中希有子		杉岡 充爾	岡本 修一	
小児科	斉藤 裕子	升田 真依	河内 遼	奥主健太郎	島崎 俊介	長岡 孝太
外科	吉岡 隆文	横山 将也	小林 拓史	太田 拓実	相川 瑞穂	香川 悠
乳腺外科	佐塚哲太郎	金田 陽子				
整形外科	染谷 幸男	金元 洋人		榎本 隆宏	菅野 真彦	
形成外科	佐藤 宗範			伊藤 謙民		
心臓血管外科	乾 友彦			焼田 康紀		
泌尿器科	樋口 耕介					
産婦人科	上野 啓子			鈴木 康伸	川原 麻美	小暮健二郎
眼科	小林 晋二					
耳鼻咽喉科	堀中 敦史			鈴木 智		
麻酔科	田中 敦子			畠山 稔弘		
救命救急センター	蘇我 孟群					

※人事異動に伴い、外来診療体制が変更されています。（詳しくは、10ページをご覧ください。）

※嘱託医、初期研修医は除く

退任者あいさつ



診療局技監（産婦人科部長） 鈴木 康伸

日本産婦人科学会 専門医／日本婦人科腫瘍学会 専門医

この度、3月31日をもちまして退職することになりました。

医療センターには13年間勤めました。大変充実した日々を送ることができ、感謝しています。

今後も、医療センターのさらなる発展と皆さんのご活躍をお祈りしています。



薬剤局長 古庄 賢巳

30年間勤務しました医療センターを3月31日をもちまして定年退職することになりました。

30年前、工事途中のB館にヘルメットを被り視察に来たことを思い出します。開院当初から、計画、作成、運用にいたる過程を経験できること、30年間運用に関われたことは自分にとって大きな財産となりました。2年に1度の診療報酬改定の対応に苦慮した時、先輩から、改定時などの変化をピンチではなくチャンスと捉え、多様な考えを受け入れる組織体制（Diversity Management）を考えなさいとの指示をいただき、とても参考になりました。今後の薬剤局は「外来患者さんへの関わり」、「入院から退院までの病棟での薬剤師の関わり」、「医薬品の適正使用の実践」等、診療チームの一員として貢献していくと考えます。

今後も、医療センターが将来にわたり、ますます発展することを心から願っております。

新任者あいさつ



産婦人科部長 齊藤 俊雄

日本産婦人科学会（専門医・指導医）／日本婦人科腫瘍学会 専門医／日本麻酔科学会 標榜医

この度、産婦人科部長を拝命しました齊藤俊雄と申します。

医療センター News の編集部を兼任しておりますので、明るい自己紹介をしたい所ですが、近年産婦人科医の高齢化及び減少が顕著であり、平成26年度は昨年より人員減でスタートする厳しい状態となってしまいました。しかし、少数精鋭主義で今まで通り地域医療に貢献し、紹介していただいた患者さんに優しく第一に接して行こうと思っております。

産婦人科は『ゆりかごから～最後まで』女性の一生を支援する科です。初心に帰り、各科と連携を取り合い頑張りますので、よろしくお願ひいたします。



眼科部長 上原 七生

日本眼科学会専門医／ボトックス治療認定医／身体障害者福祉法指定医師（視覚障害）

4月1日付で眼科部長を拝命致しました。当科では「入院での白内障手術」を柱に、広く目の症状でお困りの患者さんのための医療を提供していきたいと考えています。手術や硝子体注射等、当科で行っていない治療については必要に応じて他の専門病院へご紹介させていただいているが、患者さんご自身では判断がつかない事も多いと思いますので、まずは受診して当科医師に相談していただければと思います。この眼科に勤めて8年半になりますので、すでに私の顔をご存知の方もいらっしゃると思いますが、気持ちを新たに目の不自由な方の光に少しでもなれるよう、より一層頑張る所存です。



薬剤局長 小安 勝

4月1日付で薬剤局長を拝命しました。この30年、薬剤管理指導業務・抗癌剤調製など新しい業務の推進に取り組んできましたが、近年、薬剤師としての仕事は大きく変化しています。物（医薬品）中心の業務から個々の患者さんに最適で安全な薬物療法を提供する業務に変遷しつつあります。患者さんの状況を把握し得られた情報を医師等にフィードバックして処方提案を行い副作用の軽減や防止に努めたり、最新の薬剤情報を収集し医師等に提供して最適な薬物療法がなされるようにしたりする「病棟薬剤業務」を推進していきたいと考えています。チーム医療の一員として安心で安全な医療の提供をしたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

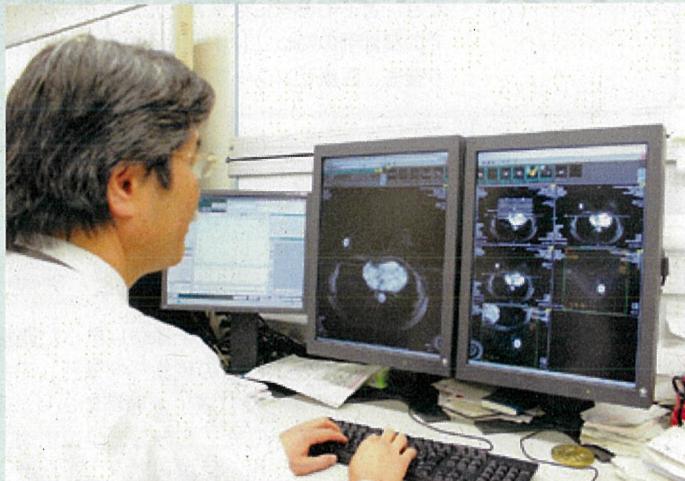
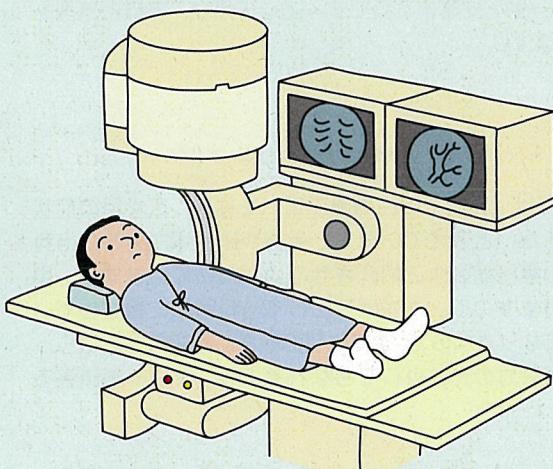
特集

放射線診断科・放射線治療科 を紹介します

当院は平成26年4月1日から放射線科を放射線診断科および放射線治療科の2科に分科して診療にあたります。今回はそれぞれの科の特徴、これからのがん治療について紹介します。

放射線診断科

このたび放射線科は放射線診断科と放射線治療科に分かれ、おのおの独立した診療科になります。その背景には、放射線診断と放射線治療の専門性が大きく異なっており、数年前から日本医学放射線学会が、放射線専門医を放射線診断専門医と放射線治療専門医とに分けて認定し、両方の取得を認めなくなっています。近年、大学病院だけでなく、市中病院でも診断科と治療科を別々に標榜する病院が増えてきています。



読影中の七條部長

放射線診断科は、画像診断とIVR (Interventional Radiology)を行います。

画像診断は、X線写真、CT、MRI、血管造影、核医学(RI)などからなります。内科や外科などの各診療科から依頼を受けて撮影を行い、読影依頼のあるものについては文書で報告しています。他院の医師からの依頼にも地域医療連携室を通じて応じています。

IVR (画像ガイド下の治療手技)では、外傷性出血例の止血や泌尿生殖器疾患の血管内治療を主に行っています。

どうぞよろしくお願いします。

放射線診断科部長 七條 祐治

- 日本医学放射線学会放射線診断専門医
- 日本医学放射線学会研修指導者
- 検診マンモグラフィー読影認定医



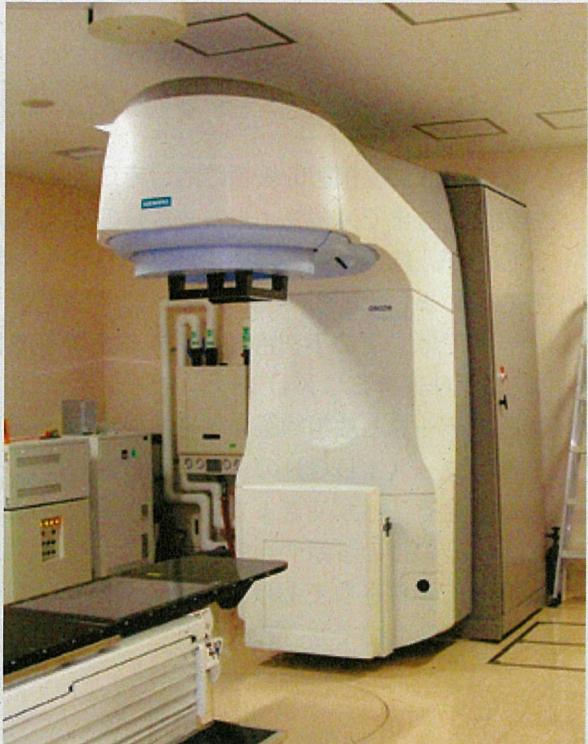
放射線治療科

放射線治療科は、がんの3大療法とされている手術・化学療法・放射線治療のうちのひとつを担当します。平成26年1月1日付で放射線治療専門医を採用したことにより、これまでの放射線科を放射線診断科と放射線治療科とに分け、それぞれの専門分野を行うこととなりました。これは当院が地域がん診療連携拠点病院として3大療法を行う体制を確立するためのものもあります。

当院ではこれまで1日平均30件の放射線治療を行っていましたが、治療依頼の増加に対して十分に対応できず、時期によっては開始待ちとなることもあります。診療体制の充実が急務でした。現在は常勤治療専門医1名と非常勤医師2名で、診療放射線技師2~3名、看護師1名、事務職員1名を配置し診療を行っています。緊急の治療にも対応できる体制がとれるようになりました。今後も地域がん診療連携拠点病院として更に万全な体制を確立すべく努力してまいります。

当院の設備は放射線治療装置（リニアック）1台・治療計画装置1台・治療計画CT1台・X線シミュレーター1台で、標準的な装備で治療を行っています。これらの装置は通常の放射線治療を安全かつ確実に遂行するのに十分な機能を備えており、CTやMRI、PETなどの画像診断情報を基にして立体的な放射線治療の方法を検討して病変に対して正確に、なおかつ副作用を可能な限り低くする治療が可能です。定位照射や強度変調放射線治療といった特殊な高精度治療を行う場合は他の病院を紹介することとなります。今後、当院でも特殊治療が行えるよう設備の拡張も必要と考えています。

高度な放射線治療装置の開発は目覚ましいものがありますが、最近のがん治療の進歩は何種類もの治療法を組み合わせて行うことに依るところが大きいのは間違ひありません。抗がん剤の多数の組み合わせ、抗がん剤と放射線治療の同時併用、手術前の抗がん剤・放射線治療の同時併用などにより、今まで十分な治療が行えなかったがんに対しても期待が持てるようになってきました。当院には様々な分野のがん治療専門スタッフがあり、連携して最善の治療法を検討し、患者さんが安心して良い治療が受けられるよう努力させていただきます。



リニアック



この部分から放射線を照射し治療します

放射線治療科部長 有賀 隆

- 日本医学放射線学会 放射線治療専門医
- 日本医学放射線学会 研修指導者
- がん治療認定医機構 暫定教育医

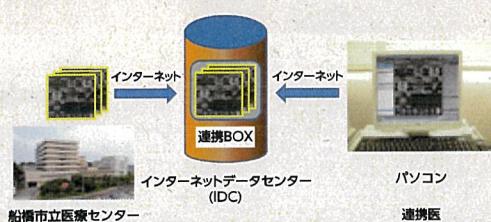


当院における地域医療連携 ～インターネットを利用した画像検査報告システム～

当院では、連携医の依頼に応じてCT、MRI、RI検査など様々な画像検査を行っています。検査結果はこれまでX線フィルムやCDの形で連携医に郵送したり、患者さんに直接届けて貰ったりしていましたが、結果を知るまでに時間がかかる、あるいはフィルムの保管場所にも困るなどの声が多く寄せられていました。

当院では、この不都合を解消するため平成25年1月からインターネットを利用した画像検査報告システム（「連携BOX」）を導入しました。これは従来のやり方をIT化する試みですが、当院で得られた画像データと放射線医の読影所見はインターネットを通してシステム運営会社のインターネットデータセンター（IDC）の「連携BOX」に送られ、連携医は自宅のパソコンからIDCにアクセスして画像を見ることができます。また、患者さんにとっては、画像フィルムを届ける手間がなくなることに加え、その後の診断や治療も迅速化され、メリットが大きいと考えられます。もちろん、セキュリティは充分に担保されており、自宅にインターネットが通じるパソコンがあれば誰でも簡単に利用可能で、費用負担はゼロです。この方法だと早ければ検査当日にも結果を知ることができるうえ、フィルム保管

インターネットを利用した画像検査報告システム



の煩わしさからも解放されます。

当院ではこれまで46人の連携医がこのシステムに応募しており、実際に利用されている先生からは好評を得ています。

連携医の先生で新たに本システムを利用したいという方は地域医療連携室（担当MSW後藤）までご連絡下さい。

副院長兼地域医療連携室長 多部田 弘士

災害に備えて診療に必要な水を確保

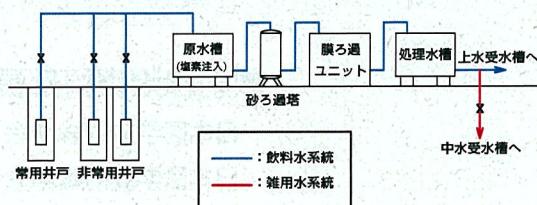
災害拠点病院である当院は、地震などの災害で断水した場合でも、医療活動が継続できるよう、新たに非常用の井戸を設置しました。

今回設置した井戸は3本で、通常時はその内の1本を使用し、1日に約80トンの井戸水を汲み上げて日常的に水質管理を行いながら主に上水道として使用します。また、災害等が発生し、上水道の供給が遮断された場合には、残る2本の非常用井戸が稼動し、併せて1日最大約400トンの水を汲み上げることができる仕組みとなっています。

汲み上げた地下水は、不純物を取り除く膜ろ過装置により水道水と同等の水質に浄化され、手術室や診察室等に供給されるほか、飲料水やトイレにも使用できるため、断水しても診療を継続することができるようになりました。

災害発生時に一人でも多くの尊い命を救うためには、災害発生直後から、医療体制を整える必要があり、診療に不可欠な機材やマンパワーの確保に加え、水や電気といったライフラインの確保が重要となります。そのため平成24年度の自家発電装置の更新に続き、この度、非常用井戸を整備して災害時でも診療が継続できるよう、設備の充実を図りました。

地下水ろ過システムフロー図



※この「医療センター News」のバックナンバーは当院ホームページでご覧いただけます。

三村雅也診療局技監が 千葉県市長会会長から表彰されました

平成26年1月27日に平成25年度千葉県市長会職員表彰式が行われ、当院の三村雅也診療局技監兼整形外科部長が表彰されました。これは、県内各市において、市民の福祉や市政の発展に尽くした市職員の中から選ばれた方々を表彰するものです。今回の表彰を受けて、三村診療局技監は「このたび、千葉県市長会会長から表彰されたことを大変光栄に感じています。船橋市からは私を含め11名が表彰されました。振り返れば1993年4月、整形外科医師として船橋市立医療センターに赴任して以来、早20年が過ぎました。この間、ただひたすら地域住民が健康で快適な生活を送れるようにと願い、日々働き続けてきたことが評価されたものと考えています。今後も公的病院としての使命を自覚し、市民に寄り添った丁寧な診療を心掛け、この表彰に恥じぬよう鋭意努力する所存であります。」と、今後の抱負を語りました。



ロゴマーク が完成!!

この度、当院のシンボルマークが完成しました。このマークは青と緑を基調とし、船橋の地名にちなみ「舟」の構成を活かして作成しました。

これからも当院は、地域の中核病院として救急医療、地域医療連携を更に充実させ、質の高い医療を提供できるよう取り組んでまいります。

研修医の つぶやき

初期臨床研修医2年 嶋 由紀子

昨年4月から始まった初期臨床研修医生活も1年が経ちました。この1年間でいろいろな科を研修させていただいて様々なことを学びました。6年間勉強してきたことを現場ですぐに活かすのがとても難しいことを痛感しましたが、少しは成長できたかなと感じています。また、医師以外の医療関係者である看護師、検査技師、栄養士、事務員など様々な人がいて病院運営が成り立っていることも改めて実感しました。

初期臨床研修は2年間様々な科をまわり、各分野の勉強をしてから3年目以降専門の科を選びます。当院のプログラムは15か月間決められた科をまわり、残り9か月は自分で選んだ科をまわります。もうすぐ自分で選んだ科をまわる期間になり、将来を決める不安もありますが同時にさらにいろいろな科で勉強できる楽しみもあります。

ところで研修医は休みなく働いていそうと思っている方が多いかもしれません、当院では年に1回研修医だけで旅行に行く毎年恒例の行事があります。今回は昨年11月に下田に行って、BBQやシーカヤックをしながら研修医同士の交流を深めつつ休日を満喫してきました。

4月には後輩も入ってくるので、今まで教わったことを後輩に教えつつ、去年以上に様々なことを学んでいきたいと思っています。



研修医旅行での一枚

当院は省エネに取り組んでおります。ご協力お願いいたします。

「肺癌って どんな病気？」を開催しました

第17回 公開医療講座



肺癌の症状から治療法までをわかりやすく説明しました

1月21日（火）に市民文化創造館（きららホール）において、当院の平野聰腫瘍内科部長を演者とした第17回公開医療講座「肺癌ってどんな病気？」を開催しました。

現在、癌の中で最も死亡者数の多いのが肺癌です。最近では1年間に7万人以上が肺癌で命を落としています。発見された時期が比較的早期であれば手術や放射線療法で完全に治る可能性がありますが、進行癌の場合は完全に治すのが困難な状況です。

肺癌の症状には、咳や痰、血痰、胸痛、発熱など、ふつうのかぜに似ているものもあります。しかし、かぜの場合は通常2週間くらいで治りますので、症状が2週間以上続く場合には医療機関を受診していただく方がよいでしょう。また、肺癌の場合、症状が出てきた時点ですでに進行していることが多いので、早期に発見するためには症状がなくても健診や人間ドックをお受けになっていただくことが必要になってきます。

肺癌の発症は喫煙と深く関連しており、特に毎日20本のたばこを吸う人が癌になる可能性は、吸わない人に比べ約10倍になります。本人がたばこを吸わず、家族が喫煙しているだけでも肺癌の発症率が上がります。現在、たばこを吸っている人にとって禁煙することが非常に大切です。

腫瘍内科部長 平野 聰

第7回 がん市民公開講座

「放射線とがん治療について考える」を開催しました

毎年3月に開催している「がん市民公開講座」ですが、第7回目の本年は3月9日（日）にFACE市民文化創造館（きららホール）で開催しました。『放射線とがん治療について考える』というテーマで放射線治療科の有賀隆部長が講演しました。

技術開発が目覚ましい放射線治療分野では様々な治療方法・機器が出現し、いずれも“効果は高く、副作用は少なく”を目指しています。そのアプローチは多様ですが、一般に行われているものには“外照射”、“小線源”、“内用療法”的3種類があり、この中で体の外側から放射線を当てる“外照射”は最もポピュラーな治療方法で最も進歩が顕著な領域です。また外科療法・化学療法にも著しい進歩があり、これらの治療を組み合わせることによりがんを治すあるいは寿命を延ばせるようになってきました。

今回の公開講座では放射線治療の進歩の話だけではなく、数年来話題になっている“治療を受けない”、“がん放置療法”に対して、患者さんに一つの考え方を鵜呑みにしないで客観的によく吟味して判断するようアドバイスしました。

1時間半におよぶ講演でしたが、参加された方々は皆さん熱心に聞き入り、講演後の質疑応答も充実して、内容の濃い公開講座でした。



日々進歩する放射線治療について紹介しました

病院ボランティア（患者さんの案内や図書の整理など）を募集しています。詳しくは、医事課まで

ぼうけん

剖検慰靈祭を執り行いました

平成26年2月17日（月）に、船橋グランドホテルで剖検慰靈祭を行いました。当院では、医学の発展及び研究のため、ご遺族の承認を得て、病理解剖を行っております。今回の慰靈祭は、平成22年9月から平成26年9月までにご協力いただいたご遺族をお招きして執り行いました。

当日は、20組35名のご遺族のほか、執刀医をはじめとする医師や看護師など23名の職員が参列しました。



病院を代表して高原善治院長は「次世代の人々が、少しでも病気の苦しみから解放される方法は、亡くなられた方々の御篤志によって支えられている病理解剖による検討が極めて重要です」と慰靈の言葉を述べました。続いて、解剖にご協力いただいた45名の方全員のお名前が奉読され、参列者全員による献花も行われました。

病理解剖へのご協力に対する謝意をあらためて表するとともに、ご冥福をお祈りいたします。

看護師(正規・パート)募集

平成26年度募集概要



救急医療、がん医療、地域医療に
発展的にがんばっている病院です。
一緒に働きませんか。
常勤は59歳、
パートは64歳まで応募可能です。
パートは随時募集しています。

- 資 格／看護師・助産師免許をお持ちの方又は、
27年3月までに取得見込みの方
 - 募 集／看護師・助産師（正規・パート）
 - 休 日／4週8休制
(パート職員の場合は、勤務日数・時間の相談に応じます。)
- ※ 詳細は当院ホームページ (<http://www.mmc-funabashi.chiba.jp/index.html>) をご覧いただ
くか、総務課庶務班までお問い合わせください。
- ※看護職を対象とした病院説明会を開催しています。
当院ホームページをご覧ください。

今後の試験実施予定

試験日	受験申込期間
6月21日（土）	5月12日～6月11日
8月23日（土）	7月14日～8月13日
10月18日（土）	9月8日～10月8日
12月20日（土）	11月10日～12月10日
27年1月24日（土）	26年12月15日～27年1月14日

料金改定のお知らせ

平成26年4月1日から消費税が8%となることに伴い、特別室等の使用料、診断書等に
要する手数料、予防接種の料金など保険適用外の料金を改定します。詳細は、当院HPま
たは院内掲示等をご覧ください。



船橋市立医療センター

電話番号 047-438-3321 (代)

外 来 担 当 医 師 一 覧 表

平成26年4月1日現在

		月	火	水	木	金	備考
内 科	新 患	神崎洋彰・〔交替医〕	前川 祐子	下山 立志	関根有希子	〔交替医〕	消化器の外の水本、(火)の安藤、(木)の関、(金)の小林は予約患者のみ
	呼 吸 器	中村 祐之 柳澤 麻子	天野 寛之 中村 純	多部田弘士 巴山 紀子	中村 祐之 中村 純	多部田弘士 天野 寛之	
	消 化 器	水本 英明	水本 英明 関 厚佳 興梠 慧輔	安藤 健 東郷 聖子	水本 英明 関 厚佳	小林 照宗 安藤 健 今関 洋	腫瘍は、肺がん、 縦隔腫瘍、原発不明がん が対象
	代 謝 腫 瘍	岩岡 秀明 平野 聰	下山 立志	鶴岡 明	下山 立志	岩岡 秀明 平野 聰	
心 臓 血 管 セ ン タ ー	循 環 器 内 科 予 約	内山貴史・黒岩信行 稻垣 雅行	福澤 茂 黒岩信行	前川 潤平 稻垣雅行 内山貴史	杉岡 充爾 市川壮一郎	福澤 茂 池田 篤史	※(火)は第1・3・5稻垣、 第2・4内山
	新 患	前川 祐子	池田 篤史	〔交替医〕	沖野 晋一	〔交替医〕	
	心臓血管外科	〔手術日〕	高原善治・茂木健司	〔手術日〕		〔手術日〕	午後1時30分から ※第1・3・5高原 ※第2・4 茂木
緩和ケア内科				〔交替医〕	〔交替医〕		午前9:00～ 予約患者のみ
精 神 科		宇田川雅彦	宇田川雅彦	宇田川雅彦	宇田川雅彦		新患は事前予約が必要
小 兒 科		木谷 豊 伊賀 裕子	佐藤 純一 内山 薫	丹羽 淳子 斉藤 裕子	木谷 豊 升田 真依	伊賀 裕子 坂井 美穂	
外 科	消化器・一般	丸山 尚嗣 宮崎 彰成	渡辺 義二 夏目 俊之 佐藤やよい	丸山 尚嗣 山本 悠司	田中 元 吉岡 隆文	宮崎 彰成	(月)松崎 午前のみ (火)丸山 午前のみ (水)佐塚、吉原 午後ののみ (金)金田 午後ののみ
	乳 腺	松崎 弘志		松崎 弘志 佐塚哲太郎 吉原ちさと		唐司 則之 松崎 弘志 金田 陽子	
	新 患	〔交替医〕	〔交替医〕	〔交替医〕	〔交替医〕	〔交替医〕	
整形外科		〔交替医〕 橋本 埃子 〔手術日〕	池之上純男 高瀬 完 〔交替医〕	三村 雅也 較田 寛明 新保 純	〔交替医〕 〔手術日〕	〔交替医〕 染谷 幸男 〔手術日〕	予約のない患者は (月)・(火)・(金)
形成外科		〔手術日〕	薬丸 洋秋	薬丸 洋秋	〔手術日〕	佐藤 宗範	
脳神経外科		唐澤 秀治 鈴木 孝典	唐澤 秀治 〔手術日〕	畠山 和己 根本 文夫 唐澤 秀治	唐澤 秀治 安間 芳秀 〔手術日〕	内藤 博道 唐澤 秀治	
呼吸器外科		内田 修 一ノ瀬修二	〔手術日〕	内田 修 一ノ瀬修二	木下 孔明 〔交替医〕	〔手術日〕	(木)は内田・一ノ瀬が交替
皮膚科		大田 玲奈	大田 玲奈 宮川 健彦	〔手術日〕	大田 玲奈 宮川 健彦	〔交替医〕	予約患者のみ (金)は大田、宮川が交替
泌尿器科		武田 英男 〔手術日〕	佐藤 信夫 樋口 耕介	佐藤 信夫 〔手術日〕	佐藤 信夫 武井 亮憲	佐藤 信夫 黄 和吉	
産婦人科		斎藤 俊雄 上野 啓子	〔外来診察医〕 林 敏 〔手術日〕	斎藤 俊雄 佐川 泰一 〔手術日〕	長嶋 武雄 〔外来診察医〕	長嶋 武雄 〔手術日〕	
眼 科		上原 七生 谷口 有子	松枝 美文 〔手術日〕	松枝 美文 〔手術日〕	上原 七生 小林 晋二	小林 晋二 谷口 有子	(火)・(水)は予約患者のみ (紹介状ありは可)
耳鼻いんこう科		〔手術日〕	小林 皇一 堀中 敦史 派遣医師	小林 皇一 堀中 敦史 派遣医師	〔交替医〕 派遣医師 〔手術日〕	小林 皇一 堀中 敦史	休診(月)
放射線治療科		東ヶ崎巖太郎	有賀 隆	酢谷 真也	有賀 隆	有賀 隆	新患は事前予約が必要
麻酔科		境田 康二	午前9:00～11:00 予約患者のみ				
歯科口腔外科		村野 彰行	村野彰行・斎藤智昭	村野 彰行	村野 彰行	村野 彰行	
特 殊 外 来	女性専用(内科)			古池 織恵			予約患者のみ
	腎臓内科(内科)		〔交替医〕				午後1:30～ 予約患者のみ 第1・3週のみ
	神経内科(内科)			澤井 摂			午後1:00～ 予約患者のみ
	ステントグラフ外(心外)		桜井 学				午後1:30～
	ベースメーカー外来			〔交替医〕			午後1:00～
	小児循環器(小児)	佐藤純一・〔交替医〕 斎藤 裕子	村社 歩美	佐藤 純一			午後 予約患者のみ (火)は第2・4
	小児神経(小児)				林北見・牧野道子		午後 予約患者のみ 月1回
	小児腎臓(小児)				秋岡 祐子		午後 予約患者のみ 月2回
	小児外科(外科)				中田 光政		
	脳神経科(脳神経外科)					東 美和	午前9:30～ 予約患者のみ
	焼・創(脳神経科)		唐澤 秀治		唐澤 秀治		

担当医師は、状況により変更することがありますので、受診の際には当院のホームページ等でご確認ください。